



包括ケア会議だより

こんにちは。笠間市地域包括支援センターです。

朝晩はめっきり冷え込んできましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、11月末日、個別事例検討会を開催しました。今回の事例は「独居でアルコールを飲んで転倒を繰り返し、サービス担当者を苦慮させる利用者への支援について」です。

本人に関わるケアマネジャー、各訪問支援サービス担当者、福祉用具事業所、移送サービス、市役所関係課が参加し、皆で顔を合わせながら意見交換、また支援方法の共有を図ることができました。

☆独居でアルコールを飲んで転倒を繰り返し、サービス担当者を苦慮させる利用者への支援について検討

本人は脳梗塞後遺症により半身麻痺があります。酒が好きで昼夜問わず酒を飲んでしまうため、サービス提供時間は泥酔状態にあり、支援者を怒鳴ったり罵声を浴びせたりします。病院受診時は移送サービスを利用していますが突然のキャンセルが多く、支援のために準備していた職員を悩ませてしまうことも少なくありません。支援可能な親族は1人しかおらず、緊急時のみの対応となっているため、日常生活を継続していくためにはサービスの利用が欠かせない状況です。

泥酔し自宅での転倒を繰り返し、痛みを強く

訴え、ケアマネジャー やサービス事業者が急な呼び出しを受けることも頻回であり、対応に困ってしまっています。『禁酒ができれば状況は良くなるはず…』と分かってはいても、本人は痛みや寂しさを紛らわすために飲酒してしまっている可能性があるのではないかと考えると、どういった対応が適切なのか、飲酒が本人の身体に与える悪影響を最優先に考慮し、皆で検討しました。本人の身体状況を改善するために主治医にも意見を仰ぎながら、適切にサービスを利用する為のルールを設け、支援者間で連携を図り支援を継続していく事となりました。

＊＊10月の検討事例の経過報告＊＊

★「住居として機能していない家に住み続ける世帯について」

本人は認知症専門医に受診することができ、サービス事業所の支援の下、処方された薬を内服することができます。また金銭管理については、日常生活自立支援事業を利用していく運びとなりました。

検討事例募集中

困難事例でお悩みでしたら、一緒に事例検討しませんか？
下記までご連絡よろしくお願ひいたします。

笠間市地域包括支援センター
TEL : 0296-78-5871